

令和5年3月1日

令和4年度 杉並教育調査結果

学校関係者評価委員会 委員長 武井 宗義

令和4年度の学校関係評価の結果を以下のとおり報告いたします。

1 評価方法について

本校では、令和4年度の教育調査（生徒・保護者）の結果を昨年度と比較し、肯定率で分析しました。特に、以下の16項目については肯定率が5%以上上がった項目と下がった項目について検討し、評価しました。

項 目	内 容		R3	R4
学校経営	子どもの学校生活は、全体として満足できるものである。	保護者	72.5	66.5
今年度は、校則の見直しや新標準服の検討など、生徒が中心となった活動を行い、自主性を高めました。今後は、生徒一人ひとりが自分事としてとらえながら課題解決に向けて取り組むことで、自己有用感を高め、より主体的に活動に取り組めるように支援していきます。また、これまで以上に生徒のがんばりや成果等を発信する広報活動を充実させていきます。感染症対策についても、継続して行い、心身ともに安心して学校生活を送れるようにしていきます。				
学級づくり	学校は生徒が安心・安全な学校生活を送ることができる学級づくりを行なっている。	生徒	79	
		保護者	73	72.4
個々の生徒の細かなケアを心掛けるとともに、電話連絡や三者面談、保護者会等で学校での様子を積極的に伝えて安心感を与えられるようにしていきます。また、生徒一人ひとりのよさについて、校内で情報共有して指導に生かしていきます。				
学習成果	子どもは、学校の授業を通して、分かることやできることが増えている。子どもは、学校で学ぶことにより、必要なときに、必要なことを、自ら学んで身に付けることができる力が育っている。	生徒	82.7	73.9
		保護者	63.8	60.1
理解度を高めるために、引き続き授業改善に努めるとともに、小テストや単元テストを実施することで、小さなつまずきも見逃さないようにします。学びを日常生活等に活用し、身に付いた力を実感できるようにしていきます。				
学習指導 適正な評価	先生は、授業で自分のことを褒めてくれたり、間違ったところを教えたりしてくれる。生徒の学力や学習の達成度を適切に評価している。	生徒	74	65.2
		保護者	60	57.3
教員が生徒一人ひとりに対する理解を深め、生徒との信頼関係を築き、生徒が安心して相談したり、学習面で分からないことを質問したりできるように努めていきます。一人ひとりの学習状況を把握し、適切な言葉かけや個に応じた学習課題の提供ができるように努めます。これまで示してきたシラバスを見やすい形式に改め、年間の学習内容や評価方法について、生徒・保護者が理解し、見通しもてるようにしていきます。				
ICT 機器の活用	学校は、ICT 機器を活用した授業を行なっている。	生徒	93	84.1
		保護者	73	68.7

ICT を効果的に使った授業をより多く準備するために、OJT 等をとおして、ICT 機器の活用の仕方を具体的に学ぶ機会を設けていきます。また、保護者に対して、ICT 機器を活用した授業を体験してもらい、理解促進を図っていきます。

道徳教育	生徒は、授業や学校での生活を通して、他者と共に よりよく生きる力が育まれている。	生徒	69	63.6
		保護者	73	70

担任の道徳の授業に加え、学年ごとにローテーション道徳を実施し、さまざまな角度からものごとを考え、よりよく生きる力を伸ばせるようにしていきます。また、生徒が自分事としてとらえられる教材等の準備を進めていきます。

体育・健康教育	生徒は、授業や学校での生活を通して、体力や食、 生活習慣をはじめ、健康な生活を送る力が育まれている。	生徒	70	64.8
		保護者	73	72.2

保健体育の授業で、よりよい生活習慣について考えたり、家庭科の授業で、食事の献立等を検討したりして、生涯にわたって健康について意識していけるようにしていきます。また、学習や給食をとおして、SDGs の日常化を図れるようにします。

地域と共に在る学校	授業や教育活動において地域の人材を計画的に活用 している。家庭や地域と連携・協力して教育活動を行 なっている。	生徒	45	38.3
		保護者	55	61.3

地域の方に教育活動でさまざまお世話になっていることについて具体例を挙げながら生徒に伝えていきます。また、地域の方との関わりの場面等について広報活動の充実を図ります。

教育相談	友達や勉強のことで悩んだときに、学校に相談できる 人がいる。学校はいじめや不登校等に対して、未然防 止・早期発見、解決に向けて、生徒や家庭と協力して 取り組んでいる。	生徒	70	61.6
		保護者	43	34.2

毎日、生徒の様子を観察して何か変化があれば言葉がけを行い、悩み等を把握できるように引き続き努めていきます。高井戸チャレンジルームの具体的な利用状況等について学校だより等で周知を図り、利用しやすい雰囲気づくりを継承していきます。

安全教育	生徒は、授業や学校での生活を通して、地震や火災、 事故など様々な危険を予測し、回避する力が育まれている。	生徒	71	65.5
		保護者	73	46.8

継続して安全教育や避難訓練を実施し、災害時には、最善の対応について自ら考え、安全な避難行動ができる生徒になれるように努めていきます。

特色ある教育活動	学校にはアンネのバラや朝学習など特色ある教育が あり、生徒の成長により効果をもたらしている。	生徒	65	62.5
		保護者	72	65.9

アンネのバラに関する道徳の授業、バラの水やり、アンネのバラ委員会の諸活動をとおして、バラへの愛情を深めるとともに、平和への関心を高め、豊かな心情を育成していきます。
朝学習を継続することで着実に力が伸びていることを示すことで、モチベーションを高めていきます。
学校だよりやホームページをとおして、朝学習でどのようなことに取り組んでいるか、保護者等に周知していきます。

総合的な学習 キャリア学習	職業調べやキャリアガイダンスなどの進路学習は、生徒たちの将来の生き方を考える上で役立っている。	生徒	64	58.3
		保護者	56	67
自分の将来について、肯定的にとらえ多くの選択肢を得るために、多種多様な高校について調べたり様々な職種の方々と関わったりすることを継続していきます。				
学校行事	学校行事（体育大会、学芸発表会、修学旅行、スキー教室など）は学校生活が充実し、生徒の成長に役立っている。	生徒	71	58.7
		保護者	70	64.9
生徒一人ひとりが活躍や喜びを実感できるような取り組みを模索していきます。行事をとおして培った力を、日常の生活で発揮できるようにしていきます。				
部活動	学校の部活動は、そのねらい（望ましい人間関係、個性の伸長など）が達成され、生徒の成長に役立っている。	生徒	72	63.7
		保護者	68	66.5
部活動のねらいを生徒・保護者に改めて周知し、目標・目的をもって取り組めるようにしていきます。				
自己肯定感	学校生活全般を通して自分の行動が認められている。家庭において、子どもの自己肯定感を高めることを意識している。	生徒	64	56.4
		保護者	70	49.1
多様な感情を共有する活動を意図的に取り入れ、「人の役に立った、人から感謝された、人から認められた」という自己有用感を高めることで自己肯定感の育成を図っていきます。				
感染予防対策	学校は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じた上で、教育活動が行なわれている。	生徒	78	67.1
		保護者	83	75.7
地域の実態や社会の実情等を考慮しながら、引き続きガイドラインに沿った対応と予防対策を講じていきます。				

2 学校評価委員会の総合所見

今年度は、感染症対策を行った上で、コロナ禍以前の学習活動や学校行事等に近い形で行うことができ、仲間と支え合いながら、生徒一人一人が生き生きと学校生活を送る姿が戻ってきたと授業観察や行事等からうかがい知れた。

生徒の教育調査の結果では、「どちらとも言えない」と回答した生徒の割合が高く、多くの項目で2～3割に達しているのが、行事等で活躍したり学習したことが生かされたりすることを実感できる場面を数多く設定していったほしい。今後も、多様な感情を共有する活動を意図的に取り入れ、「人の役に立った、人から感謝された、人から認められた」という自己有用感を高めることで自己肯定感の育成を図ってもらいたい。また、職場体験や地域を知る学習を行っているにも関わらず生徒が地域と関わっていることを実感していない点が課題であり、生徒に地域との関わりを実感できるような指導の工夫を求める。学力に課題のある生徒に対して、地域の方の力をお借りして、放課後に「高中ゼミ」を実施するなどして補習と学び直しの機会をつくってもらいたい。

保護者に対しては、これまで示してきたシラバスを見やすい形式に改め、年間の学習内容や評価方法について理解しやすいものにする事で学習指導や適正な指導について理解促進を図ってもらいたい。また、学校の授業等でのICT機器の活用について、保護者への理解促進を目的として、土曜授業の際に、保護者向けのICT活用模擬授業の開催を希望する。

来年度の学校評価は、各学年の実態等を把握するために学年がわかるようにしてもらいたい。